



Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 39

H31.11.21

今月のキーワード

自己表現活動の充実

スカイプで小中交流授業

昨年度に引き続き、小中一貫教育の取組の一つとして、各中学校区において小中交流（授業参観等）に取り組んでいただいているところです。児童生徒の学びの姿を見ることで、自分自身の指導を振り返ったり、指導のヒントが得られたりすると思います。小・中間の指導のつながりを見直し、更に連携を深めていきましょう。前回に引き続き、小・中の教材から指導のつながりを見直すことの必要性、また情報機器を活用した交流活動について紹介したいと思います。

自己表現活動の充実へ向けて（小・中の学習をつなぐ）

前回、とちぎっ子学習状況調査分析では

授業中、生徒が自分の思いや考えを表現する場面を十分に確保し、**間違っても自分の伝えたいことを表現することの大切さや楽しさを味わわせたい**。また、新出文法を含む英文をドリル的にトレーニングするだけでなく、**会話に+1文を付け加えたり、伝えたい内容を自由に追加したりする活動**を取り入れてほしい。と掲載しました。具体的に中学校の授業でどのような展開が考えられるか、What time is it?（中1）の単元をもとに考えてみます。まずは、小学校における学習事項を確認します。

Let's Play 2 何時に起きるか友だちとたずね合おう。

あなた	Name	Name	Name
Time	Time	Time	Time

5年生テキスト We can!1 より

Let's Listen 登場人物の日課を聞いて、線で結ぼう。

言語材料

What time do you get up? I (usually) get up at 7:00. always, sometimes, never, at, get up, wash the dishes, set the table, clean the room, get the newspaper など

※ 小学校では、既にこのような言語材料を使った活動をしています。

単元目標（例）

「まとまりのある話を聞いておおよその内容をとらえたり、一日の生活について伝え合ったりする」

always/usually/sometimes/never など頻度を表す単語も出てきます。小学校段階では、**繰り返し聞かせたり、視覚的に意味の理解を促したりすること**（カレンダー使って usually なら週5日程度、sometimes は3日程度などが分かるように指し示すなど）が必要になります。

一方、同じ言語材料を扱っている中学校の教科書には右図「下線部分を変えてペアでスキットを作りましょう」という活動があります。(Sunshine English Course 1 P57)

A: What time do you usually eat lunch?
B: At twelve thirty.
A: Really? I eat lunch at one.



会話をする**必然性を考えた自然な場面設定**をし、「聞きたい」「話したい」と思う内容のやりとりを行うことが大切です。自由度のある活動は、子どもが自ら表現したい語彙を調べることになるので、語彙も広がり、自己表現力が高まります。

指導のポイント

- 日頃から+1の会話を意識した指導を行い、自己表現活動に慣れさせること。その際、習得させたい語彙や表現は意図的に毎時間インプットしていくこと。(段階的な指導)
- 教科書にある例文だけでなく、既習事項を取り入れた会話(上記例文との関連では、Who cooks lunch?/ What is your favorite menu? 等)を織り交ぜること。(既習事項の活用)
- 最初から正確さを求めないこと。(評価の工夫)

小学校における学習事項との関連を踏まえたうえで、まずは現在使用しているワークシートを見直してみるなど、できることから取り組んでみてください。



自己表現活動は、友達の新たな面を知るチャンスです。
「知りたい」「伝えたい」という学習意欲と
「できた」「分かった」という達成感が高まります。

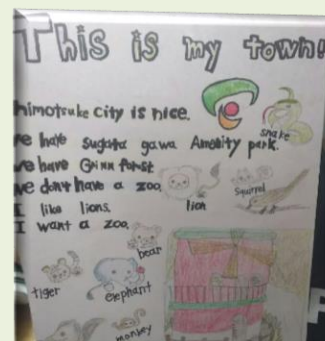


スカイプで小中交流授業(古山小・石橋中)

11月8日(木)、古山小と石橋中をスカイプでつなぎ、英語の授業を行いました。下の写真は古山小6年生の児童が、I like my town. (Unit4)の単元で学習した内容を、石橋中の生徒へ向けてプレゼンテーションしている様子です。児童は、アイコンタクトを取りながら、自分たちの考えを大きな声で発表していました。また、活動後には石橋中の生徒からコメントをもらいました。



情報機器を活用することで、オンラインで意見交換も可能になります。今後、**即興でやり取りする力を育む**ためにも、有効活用をお願いします。



ポスターには、自分たちの発想を生かした英文やイラストが丁寧に書かれていました。

文責：学校教育課 稲葉亜希恵